

【日本の大学】第43回——長崎大学：歴史や伝統踏まえ世界、地域に貢献

1923年に創立した旧制の長崎医科大学と、長崎県内の経済専門学校、師範学校、青年師範学校などを包括して、1949年に設置されたのが国立大学法人長崎大学である。教育、経済、医学などの分野を包括したため、学芸学部(教員養成)、経済学部、医学部、薬学部と水産学部の5学部と、学芸学部の下に小、中学校、幼稚園、医学部に病院、病院分院、看護婦養成施設を持つ総合的な大学としてスタートした。

地理的にみて東シナ海を介してアジア大陸と向き合う環境や、江戸時代には鎖国政策の下で出島を通じて唯一、海外に開かれていた地域であること、第二次大戦末に原爆を投下されて多大な犠牲者が出たこと、などを踏まえて大学は、そうした歴史と伝統を基盤に大きく変容しつつある現代世界と地域の持続的発展に寄与することを目指している。理念として、「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する」ことを掲げた。



文教キャンパスの大門

以下、大学のホームページなどから、歴史や現状をみていこう。

医学部の元となった長崎医科大学の起源は、江戸時代の末期にさかのぼる。1857年、

オランダ海軍の軍医、ポンペ・ファン・メールデルフォールドが、幕府の医官松本良順など 12 名に対して、オランダ語による医学講義を開始、その医学伝習所が長崎大学医学部へとつながっている。3 年後の 1860 年には、市民を対象とした西洋式病院である小島養生所が開設された。化学・薬剤、図書館、解剖施設、臨床実習機能を備えており、これが、長崎大学病院の起源とされている。薬学部の起源は、1887 年にできた第五高等中学校医学部の中に薬学部が設置された(1890 年)のが始まりとされている。

学芸学部につながっているのは、1874 年に設置された官立長崎師範学校など、いくつかの師範学校である。1884 年には女子師範学校も設置された。

1905 年には、長崎高等商業学校が片淵キャンパスに設置されているが、これが経済学部の起源である。また、県の実業補習学校教員養成所に水産課が新設された(1928 年)が、これがのちの水産学部へとつながっている。



片淵キャンパスのシーボルト記念館、2007 年国登録有形文化財に登録

原爆で多大な死傷者

1945 年 8 月 9 日、長崎市に原子爆弾が投下された。当時の長崎市の人口約 24 万人のうち 7 万 4 千人が死亡し、建物の約 36%が全壊または全半壊したと推定されている。長崎医科大学(附属医学専門部、附属薬学専門部を含む)では 897 名、長崎師範学校 54 名、長崎高等商業学校 27 名、長崎青年師範学校 1 名の計 979 名の学生、教職員が犠牲となったという。医学部の医師たちが被災した被爆者医療に当たった。医学部が編纂した記録集には教官や学生の壮絶な被爆体験が数多く語られている。

1949年5月に発足した5学部のうち、学芸学部は、大村市乾馬場で発足した。53年には長崎市大橋町に移転(現在の文教キャンパス)、66年には、教育学部に名称を変更、現在に至っている。



教育学部前（文教キャンパス）

経済学部は、経済学科、商学科の2学科で発足した。経済学専攻科の設置(1954年)、貿易学科の新設(1968年)、商学科を経営学科に改称(1971年)、貿易学科をファイナンス学科に改組(1991年)、大学院経済学研究科の設置(1995年)、経済、経営、ファイナンスの3学科を総合経済学科(7コース制)に改組するとともに、商科短期大学部を合併し、昼夜開講制を導入(1997年)などの経緯を経てきた。

医学部では、開祖と言えるオランダ国軍医ポンペの言葉、「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい」を建学の理念としており、深い医学知識と豊かな創造性、高い倫理観を身につけた医師及び医学者の育成を目標としている。

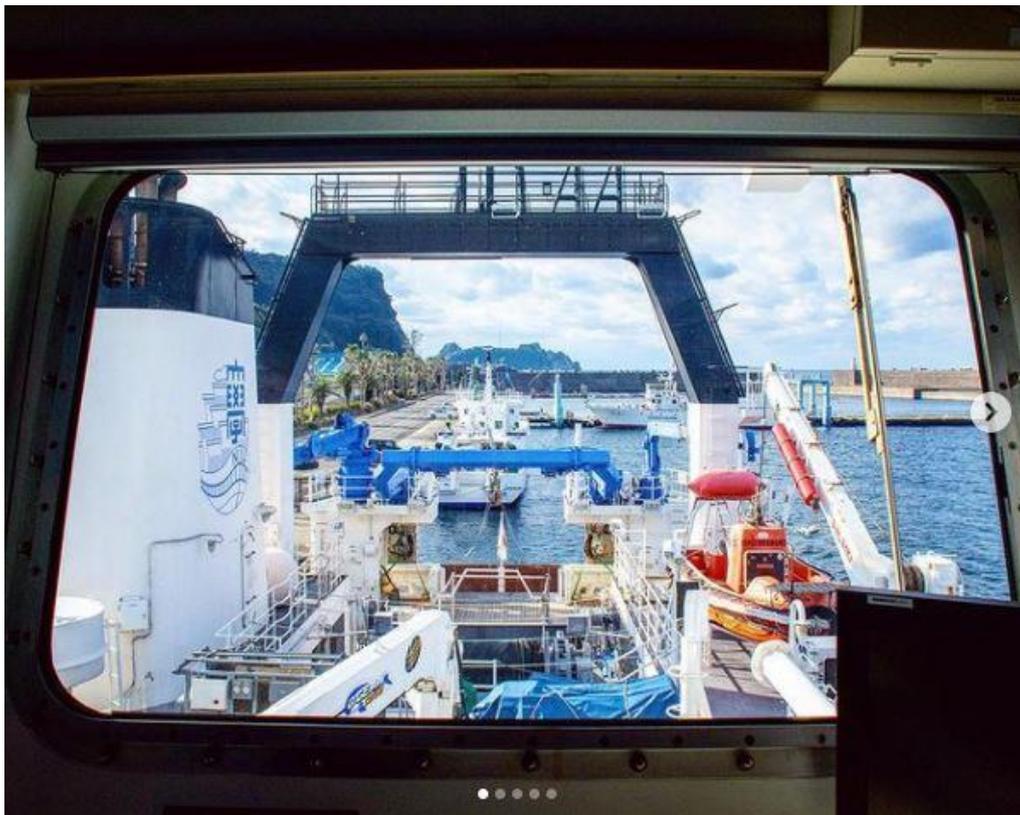
医学部は現在、医学科と保健学科に分かれている。保健学科は看護学、理学療法学、作業療法学の3専攻からなる。当初は長崎大学医療技術短期大学部の中に設置されていたが、医学部保健学科となったのは2001年10月である。

地理的環境活かす水産学部

水産学部は、長崎青年師範学校水産学科を母体として大学発足当初から設置された。漁業学科、水産製造学科、水産増殖学科の3学科に分かれていた。西に東シナ海・黄海、南に太平洋を望むリアス式海岸があり、東には日本一の干潟として特異な生物相を有する有明海に面した特徴的な地理的環境の中にある長崎の特色を生かした学部である。

これらの海にある生物資源を対象に自然科学や技術開発に関する教育・研究を通じて国や地域社会に貢献している。近年は、生物資源の食品としての利用のほか、医薬品や工業用材料など多くの有用な物質としての利用も盛んにおこなわれている。海水に含まれる化学物質を資源として利用するだけでなく、海洋の水平・垂直循環構造の解明や水質汚濁問題、プランクトンのような海洋生物のエネルギー代謝に関する研究もなされている。

海洋には未知の領域も数多く残されており、未知の生物、化学物質、物理的現象など解明されていない分野も多く残されている。一方、大規模な埋め立てや産業・生活排水の増大のように人間の社会的活動に伴う海洋の環境悪化や汚染問題、海洋の資源変動・環境変動との関わりが注目されている。水産学部はこうした社会からの要求に応えるため、物理、生物、化学や地学を基礎として広範囲の海洋に関する科学技術の教育・研究に携わっている。



水産学部附属練習船「長崎丸」の内部

発足当初からの以上 5 学部のほか、現在は多文化社会学部、情報データ科学部、歯学部、工学部、環境科学部が加わり、全部で 10 学部となっている。

1966 年に新設されたのが工学部である。機械工学科と電気工学科が置かれた。69 年には土木工学科が追加され、次いで材料工学科(70 年)、電子工学科(76 年)、機械工学第二学科(78 年)が加わったほか、電気工学科と電子工学科を電気情報工学科に改組(88 年)、機械工学科と機械工学第二学科を機械システム工学科に改組(90 年)、さらに電気情報工学科を電気電子工学科と情報システム工学科に改組(98 年)といった再編、再々編が実施されている。これに伴い大学院でも、組織の設置、再編などを行っている。

工学部の組織が大幅に再編されたのが 2011 年である。7 学科だったのを工学科 1 学科とし、機械工学コース、電気電子工学コース、情報工学コース、構造工学コース、社会環境デザイン工学コース、化学・物質工学コースの六つのコースに改組した。これは学科の壁を取り払い、自然科学の基礎体系と発展を理解するための基礎学力、知識、技能の修得をするのに最善の方策であるとして採用されたものだ。



工学部/工学研究科前

歯学部が設置されたのは1979年である。歯科矯正学、口腔外科学などの講座が開かれた。その後、多くの講座が追加されたほか、大学院の歯学研究科(博士課程)などが開設された。また、大学院の医学研究科、歯学研究科、薬学研究科を統合し、大学院医歯薬総合研究科の設置(2002年)や歯学部と医学部の附属病院の統合(2003年)、大学院医歯薬総合研究科の講座再編(2006年)などの改編が実施されている。

時代の要請、新学部が誕生

環境科学部ができたのが1997年10月である。国立大学としては初の文理融合の学部として発足した。文系の環境政策コースと理系の環境保全設計コースがあり、文系・理系の両面から環境をめぐる諸問題を多角的に捉える視座を持つ人材を育成することを目標としている。入試の際、文系、理系の両方を選び、入学後にコースの変更も可能である。



環境科学部前

2014年に開設されたのが多文化社会学部である。多文化社会において必要とされる人間力と社会力を身につけ、多様な文化的背景を持つ人々と協働し、グローバル化する社会を担い、たくましく生き抜く力を有する人材を養成する。そのために「ことばの力」「調べる力」「知識・考える力」「行動力」という四つの能力を身につけるためのカリキュラムを組んでいる。短期、中長期の留学制度やフィールドワーク実習、海外インターンシッププログラムなど、さまざまな形で学生を海外に派遣している。国際公共政策コース、社会動態コース、共生文化コース、言語コミュニケーションコースのほか、オランダに特化した特別コースも用意されている。

最も新しい10番目の学部として2020年4月に発足したのが情報データ科学部である。工学部の情報工学コースを母体として設置され、情報科学およびデータ科学を教育研究する。情報抽出から意思決定までの一連の手順をAI、機械学習、数学、統計学などの「数理モデル」に基づいて提案。その成果を、情報技術(IT)を用いてソフトウェア・ハードウェアといった「もの」として社会に還元する。

10学部に対し、大学院は多文化社会学、教育学、経済学、工学の各研究科のほか、水産・環境科学総合研究科、医歯薬学総合研究科、熱帯医学・グローバルヘルス研究科の計7研究科がある。熱帯医学・グローバルヘルス研究科は、世界中の人々、地球自身の「健康」を科学としてとらえ、地球規模の課題に直接貢献する人材を育成する目的で設立された。2006年に前身の修士専攻が設置され、その後、08年、15年と組織を拡充し、18年からは博士後期課程を設置した。この分野で世界をリードしているロンドン大学

の衛生・熱帯医学校との共同研究やシンポジウムを実施している。

留学の促進・支援を担っているのが「留学生教育・支援センター」である。海外からの留学生に対しては、日本語教育や文化交流の輪を広げている。交換留学と一般留学があり、交換留学は世界 50 か国、270 校の協定校から留学生を受け入れている。国費外国人留学制度（大学推薦と大使館推薦）、短期のサマー・ウィンタープログラムも用意されている。



令和 3 年度長崎大学学位記授与式に学位を取得した留学生さんたちの記念撮影

2021 年 5 月現在、外国人留学生は学部学生が 109 名、大学院生が 278 名など計 422 名（うち国費留学生 53 名、女子 172 名）となっている。このうち、中国からが 209 名と最も多く、次いで韓国の 46 名などである。全体の学生数は、学部は 7475 名、大学院研究科が 1557 名の計 9032 名である。教育職員は 1257 名となっている。

学長は第 15 代の河野茂氏である。長崎大学医学部、同大学院出身で、医学部助手、講師を経て 1996 年医学部教授、2006 年医学部長、09 年理事・病院長、14 年副学長などを経て 17 年 10 月から学長を務めている。専門は、感染症学、熱帯医学、呼吸器学である。

日文：滝川 進

写真：長崎大学 FaceBook & instagram